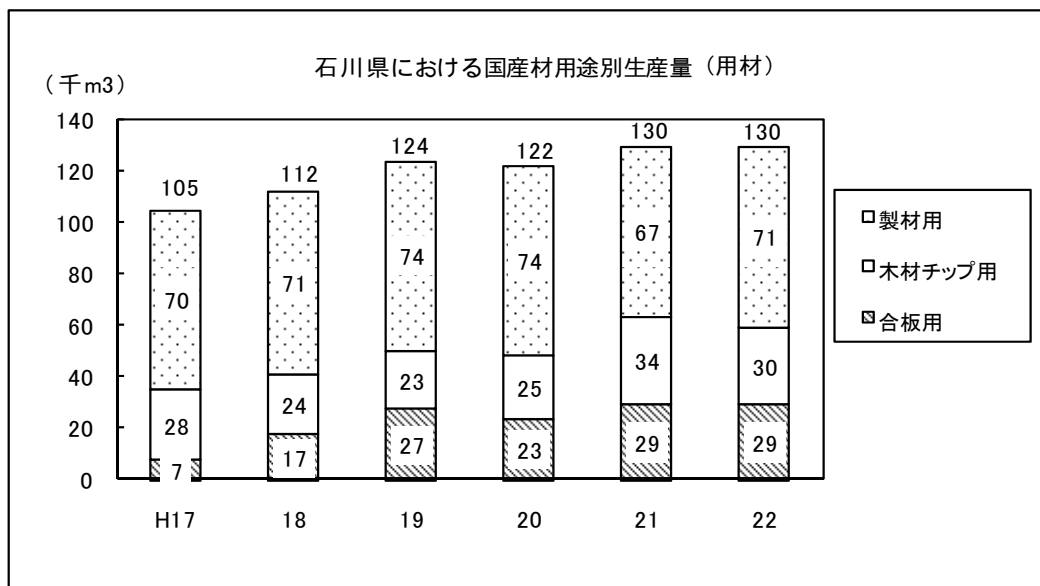


I 石川県における木材産業の概要

1 木材の需要と供給の現状

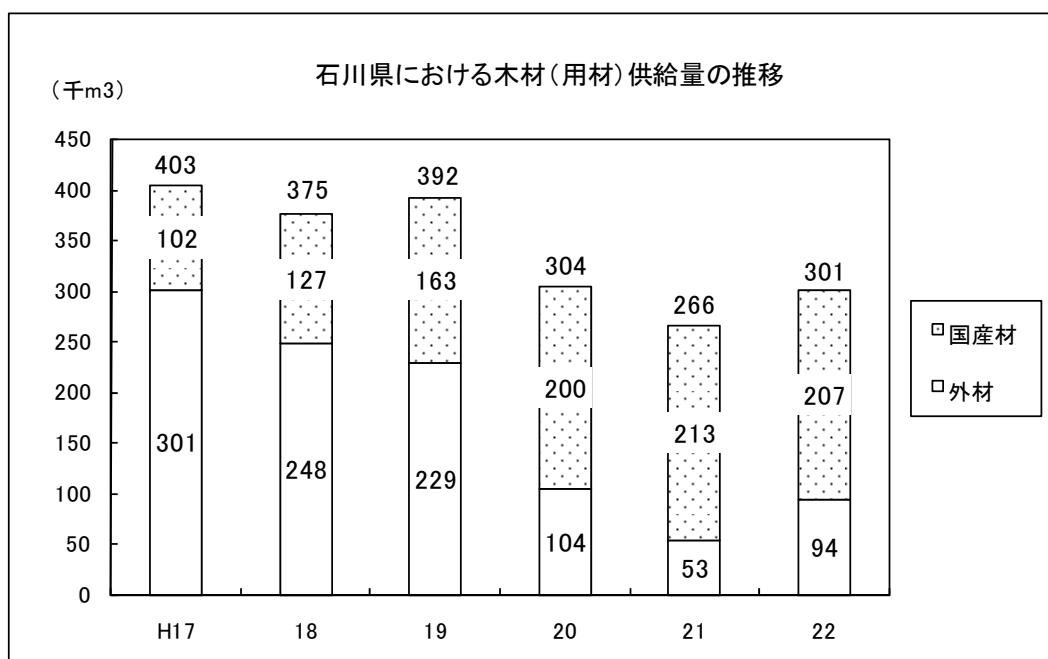
○ 製材用木材生産量が増加 (Ⅱ-2表)

平成22年次の県内木材生産量の総数は、130千 m^3 (対前年100.0%)であった。用途別では、製材用が71千 m^3 (対前年106.0%)、合板用が29千 m^3 (対前年100.0%)、チップ用が30千 m^3 (対前年88.2%)となった。



○ 国産材供給割合が減少 (Ⅱ-8表)

平成22年次の県内木材供給量の総数は301千 m^3 (対前年113.2%)であった。内訳は、国産材が207千 m^3 (対前年97.2%)、外材が94千 m^3 (対前年177.4%)となった。国産材供給率は、68.8%(対前年11.3ポイント減)と減少した。



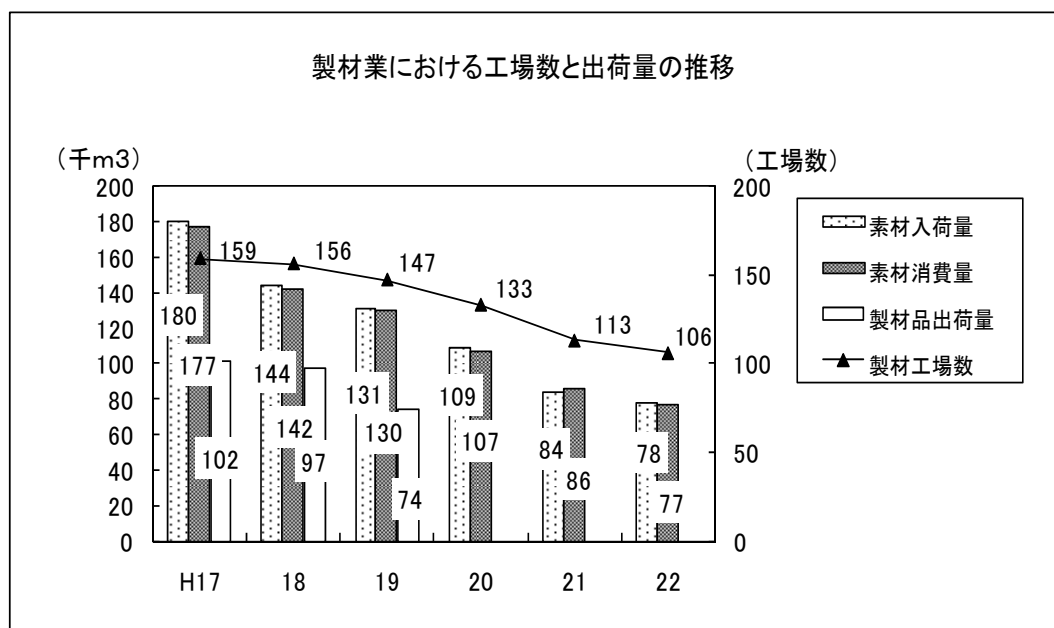
2 木材工業の現状

(1) 製材業

○ 工場数・素材入荷量が減少 (Ⅲ-2表)

平成 22 年次の県内製材工場数は、106 工場(対前年 7 工場減)、従業者数は 314 人(対前年 20 減)となった。素材入荷量は、78 千 m³(対前年 92.9%)であり、内訳は国産材 55 千 m³(対前年 94.8%)、外材 23 千 m³(対前年 88.5%)になった。素材消費量は、77 千 m³(対前年 89.5%)であり、製材品出荷量は、48 千 m³(対前年 88.9%)であった。

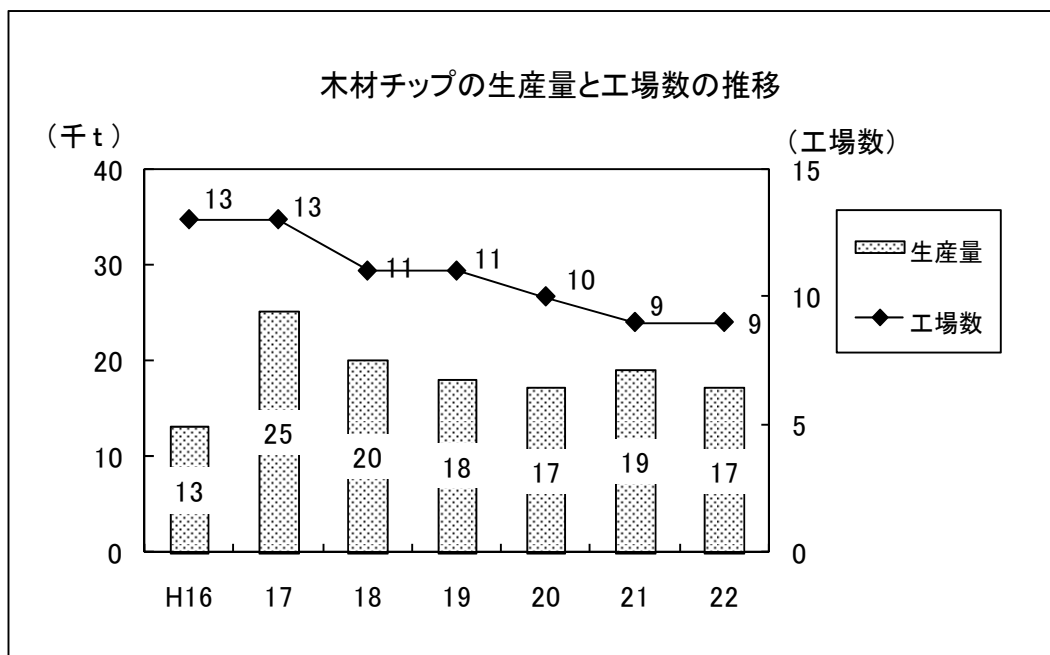
また、動力の総出力数は、8,883kW(前年比 91.3%)であり、工場当たりの出力数は 83.8kW であった。



(2) 木材チップ工業

○ 生産量が減少 (Ⅲ-6表)

平成 22 年次の県内木材チップ生産量は、17t(対前年 89.5%)となった。原材料入手区分別では、工場残材が 6 千 t(対前年 85.7%)、素材が 11 千 m³(対前年 91.7%)となった。工場数は 9 工場(前年同数)であった。

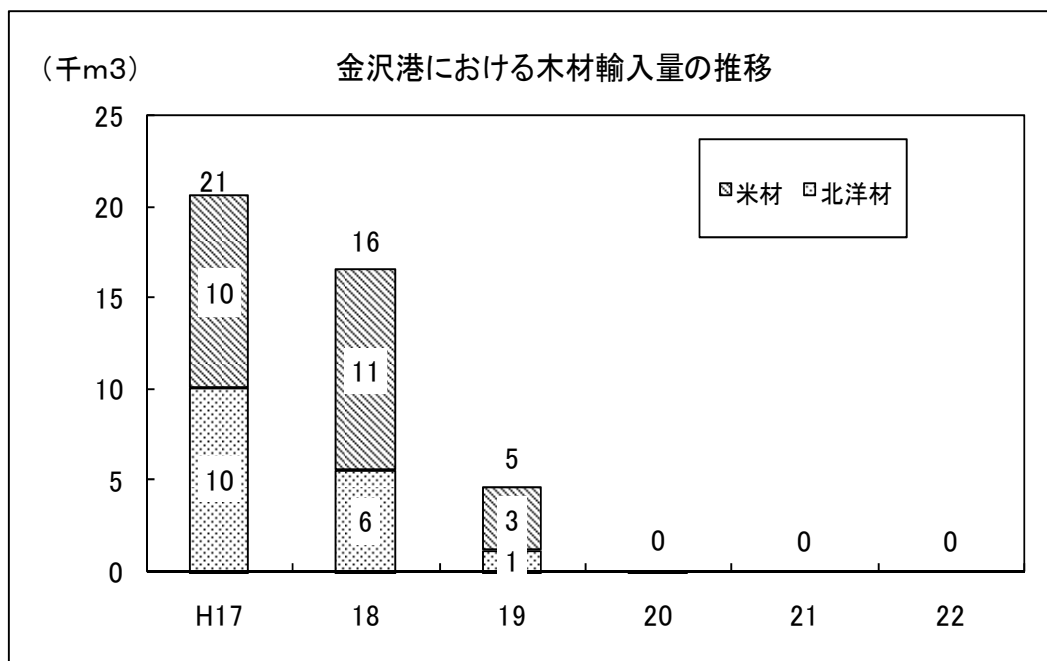


3 木材輸入の動向

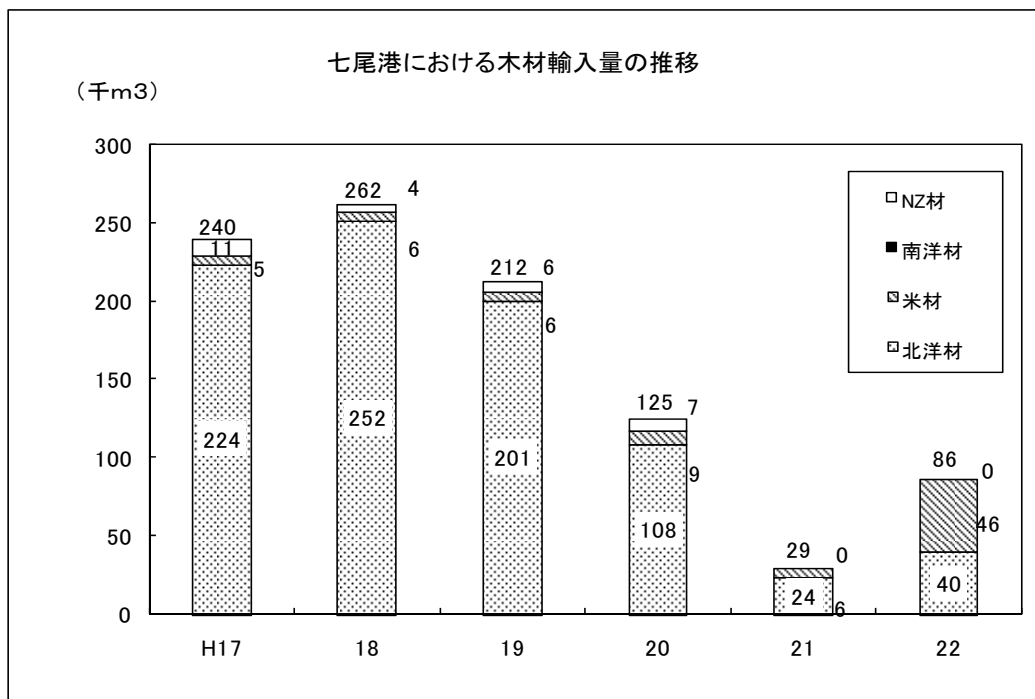
○ 木材輸入量が増加 (IV-1・2表)

平成22年次の県内木材輸入総量は86,158^m₃(対前年295.4%)であった。内訳は、北洋材が39,705^m₃(対前年168.5%)、米材が46,452^m₃(対前年829.6%)であり、北洋材率は46.1%であった。

北洋材の内訳をみると、エゾマツが5,895^m₃(構成比14.9%)、カラマツが26,421^m₃(構成比66.5%)、アカマツが2,147^m₃(構成比5.4%)、ベニマツが5,243^m₃(構成比13.2%)となった。



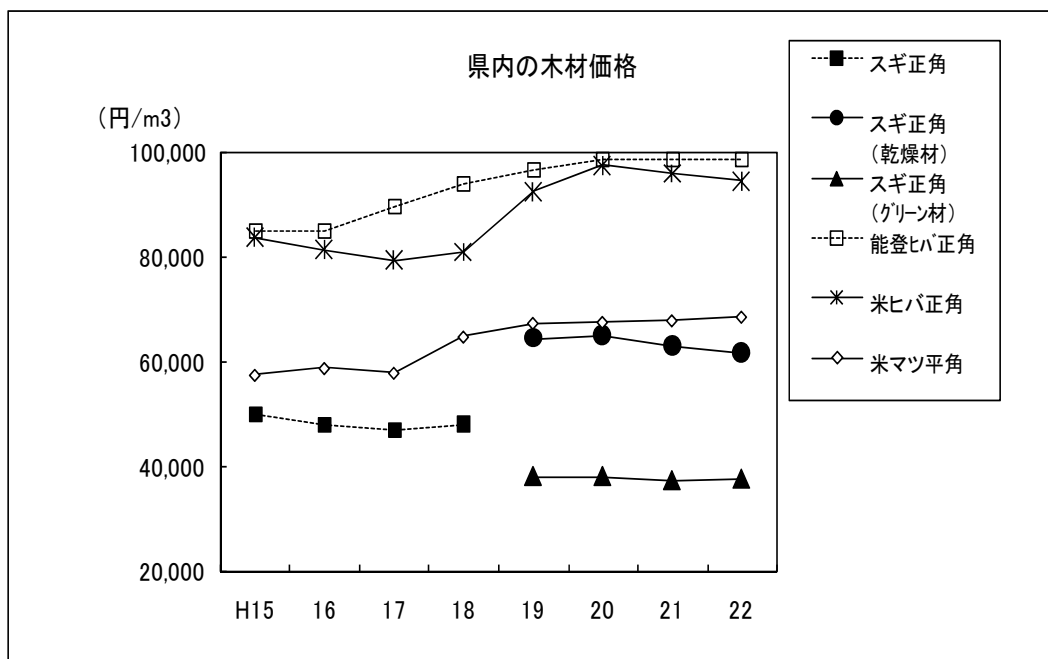
注：平成20年次の金沢港における木材輸入量は北洋材27^m₃



4 木材価格の動向

○ 製品価格はほぼ横ばい (V-2表1)

平成22年次の県内の木材製品価格は、スギ正角（乾燥材）は61,700円/m³（対前年1,300円安）、スギ正角（グリーン材）は37,500円/m³（対前年300円高）、スギ正割は49,500円/m³（対前年700円安）、能登ヒバ正角は98,600円/m³（前年同額）となり、米ヒバ正角は94,500円/m³（対前年1,400円安）、米マツ平角は68,600円/m³（対前年700円高）となった。

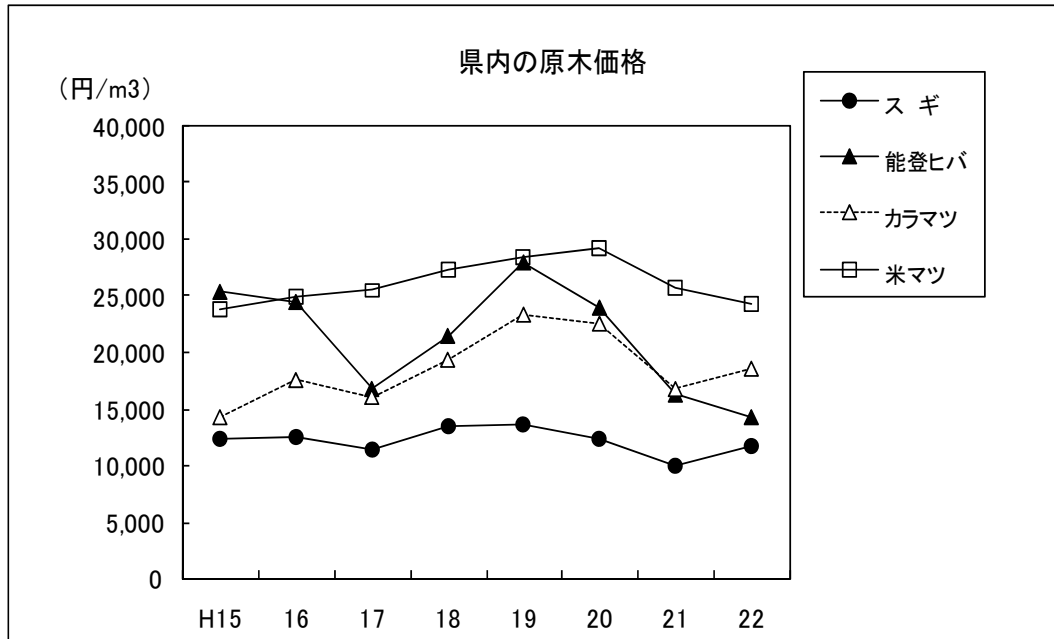


平成19年5月から価格動向調査の調査項目を一部変更。

注：スギ正角の調査について、乾燥材とグリーン材に分けて調査開始。

○ スギ・カラマツは上昇、能登ヒバ・米マツは下降傾向 (V-2表2)

平成22年次の県内の製材用素材価格は、スギは11,600円/m³(対前年1,700円高)、能登ヒバは14,200円/m³(対前年2,000円安)となり、カラマツは18,600円/m³(対前年1,800円高)、米マツは24,300円/m³(対前年1,400円安)となった。



5 新設住宅着工戸数の推移

○ 新設住宅着工戸数が増加 (VI-1表)

平成22年次の県内新設住宅着工数6,484戸(対前年104.0%)のうち木造住宅は4,982戸(対前年107.2%)となった。新設住宅着工数の木造率は76.8%(対前年2.3ポイント増)であった。

着工新設住宅の総床面積は677千m²(対前年107.5%)で、1戸当たりの平均床面積は104.5m²(対前年103.5%)であった。

